# 中木戸自治会「勉強会・ふるさとまつり」の取り組み

小東由男

## 勉強会

「おねがいします」の声で、勉強会が始まった。ここは、新潟市内にある中木戸地区公民館2階の大広間。この地域在住の小学生・中学生を募集して、夏休み期間に勉強会を実施しているのだ。

中木戸地域の自治会には、専門部として、育成部があり、町内の子どもたちの育成を目的に様々な行事を実施している。この勉強会も、その一つだ。

今年度は、次のように日程・要領で実施された。

実施期日

・前期　2018年7月26～27日

・後期　2018年8月23～24日

全日とも、午前9時から11時まで

対象児童・生徒

・町内に居住する小学生14人、中学生2人(延べ人数)

会　場

・中木戸公民館

内　容

・学校から出された休み中の学習課題や自主的な課題に取り組んだり確かめたりする。

講師団の編成

・小学校、中学校、高校、支援学校教員経験者

勉強会の実際

9時までに集合した児童生徒は、開始合図の後、広間に並べられた座卓に座り、自分の課題に取り組む。講師は、担当する児童生徒は決めないで、子どもたちの学習の進行状況を観察する。

写真　勉強会の様子

そして、臨機応変に支援をする。英語や程度の高い数学の問題に関しては、その教科の教員経験者に任せられた。

学年や課題がまちまちなので、このような個別の支援が進められた。最初に、夏休み前に学校から渡された「夏休み学習ワーク」に取り組んだ。その課題が終わった子は、家から用意してきた他のワーク教材を学習した。

自由研究の課題にも取り組んでいた。歴史上の人物のミニ事典を作成する子、高床式倉庫のミニチュア作品を手作りして、その説明書を作成する子と様々だ。作成の意図を確認して、アドバイスをした。

子ども相互の交流が自然に進められ、分からない点について教え合う場面もあった。問題を解き終わったはかどり具合が比較でき、励みになっていた。

子どもたちの反応

気心の知れた友達や兄弟と一緒に勉強することになり、学習意欲の高まりがみられた。また、よく分からないことについて講師に質問することができ、短時間で理解を深めることが出来た。

保護者の反応

家ではぐずぐずとして勉強に身が入らない様子をみせることがあったが、学習会では持続的に勉強に取り組んでいる姿が見られた。他の子どもたちの勉強ぶりに刺激を受けて、やる気が高まっているなと感心していた。

## 「ふるさとまつり」の開催

中木戸自治会が所属する中学校区には、木戸地区青少年育成協議会が組織されている。中木戸自治会の育成部も協議会に加わって、育成事業の交流・共通課題に対して連携して事業を進めている。このような青少年育成協議会の活動は、新潟市内50箇所で行われている。

これらの組織と、以前から活動してきた地域子ども会や青年会等との連携も為されている。とりわけ、地域住民にとって長年続けられてきた祭礼的行事継承・実施を柱として取り組まれることが少なくない。

一方、宅地開発により新たに移り住んだ人たちの多い地域では、故郷としての意識作りのため共同して事業を創作する試みが続けられている。

中木戸自治会では、30年以上も前に「ふるさと会」の結成が図られ、住民相互の交流活動が進められてきている。その一つが、青年会と協力して開催されている「ふるさとまつり」だ。

開催時期

・8月、お盆明けの日曜日

内　容

・子ども御輿のねり歩き

中木戸の3つの町内会合同で、中木戸の下通りで一基、上通りと豊町内連合で一基の御輿を担ぐ。

・民謡踊り

3日間の練習を経た後、当日を迎えている。

中木戸自治会の様に「まつり」を核として行事を開催することは、新開地のあちらこちらで取り組まれている。旧集落の伝統行事的な祭礼を援用して故郷意識を培う方策については、地域住民の理解と参加が得られやすいことが大きな要因になっている。工夫をこらし、計画的に取り組み、大きな行事を成し遂げた経験を得ることによって、地域に住む子どもたちの成長が促進されている。

（こひがし　よしお・所員）